



横濱佛字新聞「クリエー」デモ、ジャッポン抄譯
琉球日本支那三國ノ關係

前号ノ續

第六号

大藏省
翻譯課



414
741
6



琉球日本支那三國ノ關係前号ノ續

伊東己代治 譯

大正十一年四月
隈侯爵邸寄

琉球ノ地位ニ関シテ這般變革ノ原因ハ既ニ我輩カ前ニ叙述ス
ルカ如シ而メ右ニ叙述フニ所ノモノヲ以テ日本政府ノ挙措ニ
付テ其当否如何ヲ熟考セハ果メ右等ノ事由ハ充分ニ其所為ノ
至当ナルヲ認スルニ足ラカルモノトスヘシ我輩ハ前ニ其処置
ノ止ムヲ得カルニ出テタルヲ明言シタルモ直ニ之ヲ以テ至当
ノ所為ナリト認定スルヲ得カルナリ到底琉球ヲ屈服凌辱スル
カ如キハ政府ニ於テ豫メ少ク思慮スル所アラハ果メ此ノ如キ
新行ヲ為スヲ免レタルヘキニ惜ヒカナ政府竟ニ自ラ今日ノ不
利ヲ招キタリ抑モ琉球ノ固タル數千年間孤立ニ安ンジ毫モ今
日ノ義務アルヲ夢想セカリレナリ又未タ曾テ琉球ヲ以テ真ニ
今日ノ責任ヲ負フモノナリト思惟セシモノアラサルナリ是以
或ハ日本政府ニ於テモ琉球人ノ迷妄ヲ責討センヨリ寧ロ琉球人ノ

和訳者曰ク英訳者
此ノ一事ヲ以テ頗ル暖
昧ヲ極ムルト高スルヲ
英訳ニ依リ和訳ヲ
高ス素ヨリ記者ニ其
意ヲ解スルニ由ラレ彼ノ
服職ノ一事他ニ影響
シテ是等句ヲ為サルモ
一原文ノ意思ヲ宜ク
存ス

蒙ヲ啓キ其惑ヲ解クヲ以テ自ラ任スルノ策ヲ施スヘキノ義務
ヲ有シタルヘシ畢竟スルニ若シ政府ノ措置果シテ此ニ出ルアラ
ハ遙ニ今日ノ政策ニ勝リタルヘキヤ必セリ我輩ノ前ニ開陳シ
タル如ク日本政府カ敢テ支那ト交通ヲ絶ツヘク琉球ヲ強迫シ
テ極度ニ至ラシメタル旨ヲ偽リ以テ琉人ノ支那ト私通ヲ為シ
タルヲ付テ其各義トスル所素ヨリ更ニ信託ヲ措クニ足ラス
今退テ其一方ヲ願ルニ此ノ如キノ交通ハ固ヨリ薩摩ノ法律ニ
違背スル所ナルヲ免レサルモ猶因襲ノ久キ之ヲ以テ断テ不正
ノ業ナリト云フ得ナルニ
關係ハ一種服職ノ類ト認定スルニ至ルニ至ルニ至ルニ至ルニ至ル
ニ於テ之ヲ察棄スヘシハ漸念スルノ日ニ至ルニ至ルニ至ルニ至ル
下ヲ得ヘキ權利アル下ニ更ニ之ヲ拒否スルヲ得ス英訳者曰此
ニ極ム其故如何トナレハ今公義ヲ以テ論スルモ曾テ薩摩例ニ
於テ單ニ其附庸タルニ止リ其内属ノ地ニ非ルノ琉球島ヲ合併
シタルノ事由ニ基キ日本ノ該島ヲ合併シタルハ未タ該服職ヲ
今日ニ絶タシムルニ足ラザルモノナレハナリ當時琉球ト支那
トノ間ニ存レタル關係ヲ猶今日ニ至ル迄之ヲ存続セシメタル
カ為ニ日本ノ國體ヲ傷ケ日本ノ國是ヲ妨ケ併テ其社會ノ秩
序ヲ紊レタリト云フノ場合ニ至テ始メテ右ノ如キノ情実アル
ニ拘ハラス政府ハ琉球島ニ對シテ断行ノ処分ヲ施スニ今日ノ
如キ名義ヲ唱フルヲ得タルヘキモ我輩ノ視ル所ニ由レハ夫
ノ關係ハ決シテ此ノ如キ場合ニ非リナリ但シ政府ハ一方ニ於
テハ夫ノ關係ヲ默許シ為ニ自カラ琉球島ニ支那ノ文化ヲ奨励
シ又一方ニ於テハ勉メテ之ヲ其帝國內ヨリ擯斥シタルノミナ
ラス一時モ早ク之ヲ擯斥スルヲ以テ得策ト思惟シタルカ如キ
ニ至テ政府ノ困難ハ實ニ我輩ノ察シテ疑ハサル所ナリ故ニ今

於テ單ニ其附庸タルニ止リ其内属ノ地ニ非ルノ琉球島ヲ合併
シタルノ事由ニ基キ日本ノ該島ヲ合併シタルハ未タ該服職ヲ
今日ニ絶タシムルニ足ラザルモノナレハナリ當時琉球ト支那
トノ間ニ存レタル關係ヲ猶今日ニ至ル迄之ヲ存続セシメタル
カ為ニ日本ノ國體ヲ傷ケ日本ノ國是ヲ妨ケ併テ其社會ノ秩
序ヲ紊レタリト云フノ場合ニ至テ始メテ右ノ如キノ情実アル
ニ拘ハラス政府ハ琉球島ニ對シテ断行ノ処分ヲ施スニ今日ノ
如キ名義ヲ唱フルヲ得タルヘキモ我輩ノ視ル所ニ由レハ夫
ノ關係ハ決シテ此ノ如キ場合ニ非リナリ但シ政府ハ一方ニ於
テハ夫ノ關係ヲ默許シ為ニ自カラ琉球島ニ支那ノ文化ヲ奨励
シ又一方ニ於テハ勉メテ之ヲ其帝國內ヨリ擯斥シタルノミナ
ラス一時モ早ク之ヲ擯斥スルヲ以テ得策ト思惟シタルカ如キ
ニ至テ政府ノ困難ハ實ニ我輩ノ察シテ疑ハサル所ナリ故ニ今

和訳者曰ク英訳者
此ノ一事ヲ以テ頗ル
眼ヲ極ムト高スル
英訳ニ依リ和訳ヲ
高スルヨリ記者ニ其
意ヲ解スルニ由ラレ
服[○]脱[○]ノ一[○]他[○]ニ
レテ[○]早[○]句[○]ヲ[○]為[○]サ
ル[○]原[○]文[○]ノ[○]意[○]ヲ
存[○]ス

蒙ヲ啓キ其惑ヲ解クヲ以テ自ラ任スルノ策ヲ施スヘキノ義務
ヲ有シタルヘシ畢竟スルニ若シ政府ノ措置果シテ此ニ出ルアラ
ハ遙ニ今日ノ政策ニ勝リタルヘキヤ必セリ我輩カ前ニ刑陳シ
タル如ク日本政府カ敢テ支那ト交通ヲ絶ツヘク琉球ヲ強迫シ
テ極度ニ至ラシメタル旨ヲ偽リ以テ琉人ノ支那ト私通ヲ為シ
タルトニ付ラ其名義トスル所素ヨリ更ニ信託ヲ措クニ足ラス
今退テ其一方ヲ頌ルニ此ノ如キノ交通ハ固ヨリ薩摩ノ法律ニ
違背スル所ナルヲ免レサルモ猶因襲ノ久キ之ヲ以テ断メ不正
ノ業ナリトシテ得カレニ至レリ故ニ琉球ハ支那ニ於ケル其
關係ハ一種服役ノ類ト認定スヘキモノニシテ此ノ如キハ琉球
ニ於テ之ヲ察棄スヘシハ斷念スルハ日ニ至ル迄之ヲ存続スル
下ヲ得ヘキ權利アルトハ更ニ之ヲ拒否スルヲ得ス<sup>英訳者曰此
極ム</sup>其故如何トナレハ今公義ヲ以テ論スルモ曾テ薩摩州ニ

於テ單ニ其附庸タルニ止リ其内属ノ地ニ非ルノ琉球島ヲ合併
シタルノ事由ニ基キ日本ノ該島ヲ合併シタルハ未ダ該服役ヲ
今日ニ絶タシムルニ足ラザレモノナレハナリ当時琉球ト支那
トノ間ニ存レタル關係ヲ猶今日ニ至ル迄之ヲ存続セシメタル
カ為ニ日本ノ國體ヲ傷ケ日本ノ國是ヲ妨ケ行キテ其社會ノ秩
序ヲ紊シタリト云フノ場合ニ至テ始メテ右ノ如キノ情実アル
ニ拘ハラス政府ハ琉球島ニ對シテ断行ノ処分ヲ施スニ今日ノ
如キ名義ヲ唱フルト得タルヘキモ我輩ノ視ル所ニ由レハ夫
ノ關係ハ決[○]此ノ如キ場合ニ非リシナリ但シ政府ハ一方ニ於
テハ夫ノ關係ヲ默許シ為ニ自カラ琉球島ニ支那ノ文化ヲ奨励
シ又一方ニ於テハ勉メテ之ヲ其帝國內ヨリ擯斥シタルノミナ
ラス一時モ早ク之ヲ擯斥スルヲ以テ得策ト思惟シタルカ如キ
ニ至テ政府ノ困難ハ實ニ我輩ノ察シテ疑ハカル所ナリ故ニ今

追テ佛

其惑ヲ解クヲ以テ自ラ任スルノ策ヲ施スヘキノ義務
タルヘシ畢竟スルニ若シ政府ノ措置果シ此ニ出ルアラ
今日ノ政策ニ勝リタルヘキヤ必セリ我輩ノ前ニ刑陳シ
ク日本政府ヲ敢テ支那ト交通ヲ絶ツヘク琉球ヲ強迫シ
至ラシメタル旨ヲ偽リ以テ琉人ノ支那ト私通ヲ為シ
付ラ具名義トスル所素ヨリ更ニ信認ヲ措クニ足ラス
其一方ヲ顧ルニ此ノ如キノ交通ハ固ヨリ薩摩ノ法律ニ
ル所ナルヲ免レサルモ猶因襲ノ久キ之ヲ以テ断テ不正
トスルヲ得サルニ至レリ故ニ琉球ハ支那ニ於ケル其
種^種服^服役^役ノ類ト認定スヘキモハニシテ此ハ如キハ琉球
ヲ廢棄スヘシハ漸急スルハ日ニ至ル迄之ヲ存続スル
キ權利アルトハ更ニ之ヲ拒否スルヲ得ス<sup>英記者曰此
處佛文頗</sup>
其如何トナレハ今公義ヲ以テ論スルモ曾テ薩摩例ニ

其附庸タルニ止リ其内属ノ地ニ非ルノ琉球島ヲ合併
事由ニ基キ日本ノ該島ヲ合併シタルハ未ダ該服役ヲ
タシムルニ足ラサルモノナレハナリ当時琉球ト支那
存シタル關係ヲ猶今日ニ至ル迄之ヲ存続セシメタル
本ノ國體ヲ傷ケ日本ノ國是ヲ妨ケ併セテ其社會ノ秩
タリト云フノ場合ニ至テ始メテ右ノ如キノ情實アル
ス政府ハ琉球島ニ對シテ断行ノ処分ヲ施スニ今日ノ
ヲ唱フルト得タルヘキモ我輩ノ視ル所ニ由レハ夫
決^決此ノ如キ場合ニ非リレナリ但シ政府ハ一方ニ於
關係ヲ默許シ為ニ自カラ琉球島ニ支那ノ文化ヲ奨励
ニ於テハ勉メテ之ヲ其帝國內ヨリ擯作シタルノミナ
モ早ク之ヲ擯作スルヲ以テ得策ト思惟シタルカ如キ
府ノ困難ハ實ニ我輩ノ察シテ疑ハサル所ナリ故ニ今

追テ佛文ト對照ノ上訂正スヘシ

日ノ举措ナクシハ政府ノ所為ハ恰モ右手ヲ以テ一物ノ顛倒セ
ントスルヲ支柱レナカラ猶左手ヲ以テ之ヲ打毀セントスルニ
異ナラサルノ譏ヲ免レサリレヤモ未タ知ルヘカラス然リトモ
比一ノ極点ニ陥ラサランコトヲ欲シテ為ニ後々他ノ極度ニ局促ス
ルカ如キノ下策ハ蓋シ政府ノ自ラ免ルコトヲ得タリシ所ナル
ヘキナリ然リ而シテ一千八百七十三年支那ニ向テ施シタル確固
不動ノ政略ヲ以テ國是トシ傍ヲ漸ク以テ夫ノ旧慣ヲ墨守スル
頑固執拗ノ琉人ニ処スル所アラハ彼輩ノ怨嗟ヲ蒙ル政
府今日ノ举措ニ於ケルカ如クナラスレテ以テ果メ能ク其目途
ヲ達スルコトヲ得タリシハ我輩ノ信メ疑ハサル所ナリ今試ニ愛
蘭人カ羅馬府ニ往キテ天主教主ノ足ヲ啜フヲ看ヨ英國政府ハ
此等瑣末ノ事ヲ以テ決テ其意ニ介ヤカルナリ英國政府ノ愛蘭
人ヲ処スル持ニ嚴酷ナルモ猶且然ラハ則支那帝カ自ラ窺

字ノ法王ニ任シ壯年ノ琉球貴人ニ授クルニ宗教上ノ教育ヲ以
テスルカ為ニ琉人其化育ノ恩ニ酬ヒント欲レテ絶ヘス支那ニ
往來スルニ何ノ妨ケカアル況ンヤ一千八百七十三年ニ於テハ
琉球一軍ニ日本帝國ノ附庸國タルニ止マリ曾テ其内属ノ地ニ
非カリシニ於テナヤ
琉球カ支那ニ封冊ヲ受クルコト又ソノ福別ニ於テ海關稅ヲ納ム
ルコトニ就テ高討議スヘキ問題アリ然レトモ我輩ノ想像ニ由レ
ハ此ノ二箇ノ儀式タル之ヲ執行スルニハ琉球王莫大ノ費用ヲ
要スルモノナルカ故ニ琉人ヲ説破スルニ足ルヘキ地位ヲ有ス
ルノ官吏ヲシテ該件ヲ查辦セシムルノ勞ヲ取ルアラハ別ニ非
常ノ煩腦ト又權謀トヲ要セシレテ以テ琉球人ヲシテ夫ノ慣行
ヲ廢棄セシムルコトヲ得タルニ而シテ島津公ハ往時琉球ノ主權
者ナリシコトノ緣故アルモノナルヲ以テ該件ノ高議ヲ為サシム

ルニハ談公ヲ除キ他ニ其人アルヘカラス但シ當時島津公一不
平ヲ懐キ政府ニ對シ稍拗振スル所アリシヲ以テ倭令ニ其命ヲ
蒙ムルモ断然之ヲ辭シタルヘキヤモ知ルヘカラスト至ル其愛
國ノ氣慨ハ復タ以テ其一時ノ憤怒ヲ忘レレメタルヘシト追想
スルハ決テ其理ナキニ非ルナリ倭令ニ當時談公ノ助成ヲ得ル
ヲ能ハサリシモ談件ヲ高議スルニ就テハ何ソ必シモ前日談島
ニ派遣シタル如キ卑賤官吏ノ類ヲ以テセスレテ稍之ニ勝リタ
ルモノヲ擇出スルヲ得タルヘキハ決テ難キニ非リシナリ事
情此ノ如シ宜ク其任ニ堪ユヘキ恰當ノ人ヲ擇シテ以テ琉球ノ
迷妄ヲ撕醒セシメ又其一方ニ於テハ北京政府ヲ説破スルニ疑
ナキ智畧ト経歴トヲ兼備スル外交家ヲ擇ンテ以テ支那ト談高
議セシムルハ實ニ當時ノ緊務ナリキ而メ支那ト此ノ活戲ヲ演
セシムヘキ儼人ニハ蓋シ衆望ハ自副島代ヲ以テセントニ帰シ

タルヘシ

然ルニ政府ノ举措此ニ出ス今其所為ヲ擧ケンニ曰ク政府ハ琉
球ニ派遣スルニ何等経歴ナキ官吏乃チ其人ハ国内ノ有力社會
ニ名モ知ラレサルモノニシテ隨テ何等他人ノ信用ヲ博スルヲ
能ハサルモノヲ以ラセリ而メ北京駐劄ノ公使館ヲ問ヘハ則曰
之ヲ代理公使ノ手ニ委ネリト此ノ代理公使タル我輩真ニ其秀
才伶俐ノ人ナルヲ疑ハスト至ル其外交上ノ事ニ任スルカ如キ
ニ至テハ其身世故ニ練熟シ高位高爵ヲ蹈ム一箇ノ俊傑タルヘ
ク人ヲレテ仰望セシムルニ足ルヘキ威權ヲ有スセサルカ故ニ
自ニ卑屈ニ処スルヲ免レサルナリ
事情此ノ如クナルニ政府是レ之ヲ察セス敢テ支那ノ尊ムルニキ
ヲ輕侮シ而メソノ後來ニ何等ノ事業ヲ為シ能フヘキ回カアル
歟ヲ慮テサリシハ實ニ政府ノ過失ニ非スンハアラス

夫レ支那ノ国タル人ト貨幣トニ富ム其缺ク所ハ唯其原資ヲ
利用スルノ智者ヲ有スルノ執政家ニ在リ故ニ若シ支那ニ忽チ
一大変革ヲ生シ此ノ如キ英傑ニシテ一朝中国ノ帝位ニ登ルカ
如キアラハ日本ハ隣国ニ於テ曾テ夢思セサルノ一大強敵手ヲ
出頭シ為ニ不測ノ危険ヲ冒スニ至ルヘシ而メ此ノ如キノ一大
変革ハ屢々東洋諸国ニ起ル所ナリ

我輩カ前ニ列叙スル所ノモノヲシテ果メ信ナラシメハ(我輩ハ
誰アリテ其信偽ヲ疑フモノナキヲ信ス)夫ノ琉球事件ニ付テ徒
ニ支那ヲ激發シタルカ如キノ乃チ日本ノ過失ナリ抑モ何人ヲ
問ハス支那人ニ對スルニ唯其禮法ニ従フヲ以テ敢テ意ニ介
スルナリシハ千種万般ノ事ナリト為レ得サルモノナク又
其目的ヲ達スル能ハサルモノナレ是レ乃チ日本カ支那ニ對シ
這般ノ事件ヲ処スルニ當ラ失錯セシ所ナリ是ニ由テ之ヲ觀レ

ハ副島氏ノ支那人ニ処スルニ敏巧ナル必ス砲烟ヲ以テ迫ルニ
非レハ決テ為レ得ヘカラスト曾テ衆人ノ断念セシ所ノモノモ
曩ニ一千八百七十三年ニ俄ニ容易ニ北京内閣ノ承諾ヲ得タル
カ如キノ至ラハ政府ニ比スレハ其巧拙何ッ言ハ天壤ノミナラ
シヤ今爰ニ其旧勲ヲ枚擧センニ(第一)氏ハ支那ニ取テハ其身外
國ノ使臣ナルモ其致命書ヲ捧呈スル為ニ支那帝ニ謁見スルニ
彼カ叩頭九拜ノ礼ヲ以テセカリレカ如キ支那國ノ史乘ニ未嘗
有テ特別ナル謁見ヲ遂ケ(第二)其前年日本ト支那トノ間ニ締結
シタル條約ヲ改正シ(第三)臺灣事件ニ付テ得シテ欲シタルノ
知息ハ一切之ヲ得タル等ノ如キ大事ヲ遂ケタルモ猶氏カ支那
ヲ出資スルニ當ラハ毫モ信誼ヲ支那政府ニ失ハスレテ益弊篤
ヲ極メタルハ氏カ天津ヲ經テ日本一帰航セントスルニ當テ
彼ノ李鴻章特ニ氏ヲ迎ヘテ饗饌ヲ催フニ更ニ氏ニ深譽ヲ副ヘ

タルカ如キヲ以テ之ヲ止スルニ足ルヘシ
前頭ノ外未タ曾テ世上ヲシテ感動セシメサル重要ノ一事アリ
而テ世上モ亦其事ヲ思ハサルハ實ニ概致ノ至リナリ請フ之ヲ
左ニ開陳セン夫レ^支那ハ富国ナリ貨幣蓄積シテ其数幾千ナル
ヲ知ルヘカラス今ヤ支那ノ魯西亜ト事アルヲ論スルモノアリ
然ルニ魯西亜ノ今日ニ請求スル所ハ何ノ點ニ在ルカヲ問ハ
決ラ夫ノ銀兩ノ外アルヘカラス而テ支那若シ止ムヲ得カルニ
至リ或ハ彼ニ償金ヲ拂渡スヘク自ラ承諾スルノ日ニ至ラハ僅
ニ一兩日ノ間ヲ過スレラ夫ノ魯西亜カ請求スル所ノモノニ十
倍シタルノ金額ヲ拂出シ能フヘシ支那ハ四方ヨリ貨幣ノ匯集
スル寰宇中ノ最大富国ナリ支那ハ二千二百年間外国ニ輸出シ
テ止マサルノ国ナリ支那ハ紀元前既ニ絹布ヲ羅馬及ヒフエネ
シヤニ輸出シ而テ過般發見シタル所ニ由レハ支那ハ往古埃及

ト交通シタルノ國ナリ然ルニ當時支那ハ莫大ノ物貨ヲ輸出シ
タルモ何ぞ外國ヨリ輸入セシナキヲ以テ今日世上皆テ疑惑
ヲ生シテ曰ク彼ノ輸出ノ爲メ當時ニ得タル貨幣ハ今何レニ蓄
積シアル歟又其貨幣ハ如何成リ行キレ乎ト而テ我輩断乎トシ
テ當サニ之ニ答フヘシ曰ク其金ハ毫モ他方ニ散セズ今猶支那
ニ存スルヲ以テ要用ナル場合ニ至ラハ何時ニテモ直ニ頭出ス
ヘシト支那ノ殷富夫レ此ノ如シ此レ乃チ我輩カ前ニ所謂支那
ハ既ニ金ト兵トニ富ムヲ以テ今ヨリ日本ヲシテ恐怖戰慄セシ
ムヘク又仮令ヒ之ヲシテ戰慄セシムルニ至ラサルモ日本ヲシ
テ支那ヲ尊重スヘキ念慮ヲ懷カレムルニハ唯具人民ノ上ニ一
箇ノ英傑ヲ得ルニ在リ
加フルニ支那ハ日本ノ事情ニ明ク且支那ノ日本国内ニ漏洩シ
タルヲ一トシテ聞知セサルナキナリ今日世人ノ始メテ稱ス

ル所ニ非ス是迄ノ事跡ニ就テ論スルモ猶歴々トシテ其事ノ確
実ナルヲ証スルニ足レリ方今支那自ら曰フ一千八百七十四年
日本ニハ蓋世ノ英雄西郷隆盛アリ加フルニ尔後九州ノ割
討死シタル夫ノ勤王忠誠精英驍勇ノ士族三万余アリテ皆ナ
当時其国家及ニ皇家ニ報ユル為ニ千々ヒ死スモ悔ヒサルノ烈
士ナリキ而ノ当時彼等ク日本ヲシテ愈強大ナラシメタルヘキ
ハ嘗ニ其腰間ノ秋水ノミニ非(但シ其劍撃突戰勇猛無雙ノ立働
ハ更ニ我輩ノ賣揚ヲ待タス)尚其黨典ノ人民社會ニ彼輩無比ノ
勢力ヲ有シタルニ在リ此ノ時ニ當テハ日本實ニ恐ルニ堪ヘ
タリ然レトモ今日ニ在テハ西郷既ニ斃レ其驍勇無雙ノ士或ハ
西郷ニ先ツテ死シ或ハ西郷ノ伴フテ悉ク皆ナ地下ニ赴キタル
ヲ以テ最早日本恐ルニ足ラス而テ日本既ニ上下和合ノ途絶
ハ各黨派ヲ為シテ相互ニ容レサルカ如キノ情状アリト云フハ

決テ其誣言ニ非ルヘシ加フニ大久保死シテ国家最後ノ望ヲ失
ヒ人心全ク乖離シテ内治ノ危急此ノ時ヨリ甚キハナレ而メ其
外交上ノ位置ニ於テモ殆トクニ彷彿タルモノアリト
此ハ之レ今日支那自ら稱スル所ナリ素リ其虚妄ノ言タルハ我
輩爰ニ之ヲ証明セザルヘカラス則日本全國ノ護神ナル帝ハ仮
令ニ幾分歿其神聖ノ性質ヲ失ヒタルモ今日ニ至ル迄眞ニ人民
ノ愛敬ヲ受ケ而メ人民ノ迷妄ニ出テタルノ信仰ヲ失ヒタルノ
續トシテ益人心ヲ収攬シタルカ故ニ其他ノ事ハ暫ク措テ論セ
ス人心和合ノ事ニ至ラハ再ヒ之ヲ回復スルヲ得ヘク日本人
民中一人トシテ帝ヲ尊奉セサルモノナキナリ此ノ如キノ成果
ヲ生センニハ或ル官吏ノ如キ乃チ其人ノ價格ト行跡トハ我輩
現ニ爰ニ論出スルヲ好マカルモ猶一二ノ原因アリテ人望ヲ
失シタルモノヲ政府ヨリ黜ソケ之ニ代フルニ彼輩ヨリモ多ク

人望ノ歸シタルモノヲ登庸スルヲ以テ充分ナリトスヘシ第一
ニ畷良ヲ擇ンテ以テ外務省ヲ其手ニ委スルハ今日ノ如キ状勢
アルノ場合ニ於テハ特ニ急務ナリトス
副島氏ノ往日親驗スル所アリテ能ク支那ノ風土人情及ヒ其慣
習ニ熟知スルヤ到底能ク支那ノ外交家ヲ説服スヘキモノハ氏
ヲ除キ他ニ其人アルヘカラス而シテ彼ト夫ノ琉球事件ヲ商議決
定シテ敢テ衆望ニ負カサルヘキモノハ獨リ氏ノ能クスル所ナ
リ但シ支那ハ素リ臆病ノ議ヲ免レサルノ固ナリシト雖モ是迄
日本ヨリ該國ニ派遣シタルノ外交家ノ如キニ至テハ唯徒ニ支
那ヲ激發シ以テ遂ニ今日ニ至リ日本ニ對シ右ニ叙述シタルカ
如キ思想ヲ懷カレムルニ至リ他ニ是モ仕遂ケ得タルナレシ所
謂鉄甲中脆弱ノ點ヲ狙知スルモノハ獨リ副島氏ノ長所ナリ而
シテ氏カ常ニ狙撃スル所ノモノハ其脆弱ノ點ニ在リ

我輩ハ既ニ日本政府カ琉球事件ニ於テ何等ノ失錯ヲ為シタル
歟ヲ詳明シタリ然ルニ政府カ徒ニ支那公使ヲ東京ニ招致シタ
ルニ因テ失錯ノ上ニ更ニ失錯ヲ重ネタリ如何トナレハ談公使
ハ駐劄ノ外国使臣中ニ支那語ヲ解スルモノアルヲ以テ容易ニ
之ト密謀ヲ通スルヲ得タルヘケレハナリ而シテ琉球人モ亦此ニ
保護ヲ求ムヘキアルヲ知テ之ヲ徒ニ看過セザリシナリ
東京ニ於テ情状此ノ如クナルニ琉球ニ派遣シタル内務省ノ使
者ハ竟ニ其温和懇篤ノ使命ヲ達スルヲ得スレテ恰モ家主カ
其傭僕ヲ叱責スルカ如キノ処置ヲ為セリ彼ノ使者ハ當時此ノ
如キ処分ヲ為スヘキ權利ヲ有シタルノミナラス尚別ニ政府ヨ
リ彼ニ授クルニ確固タル訓命ヲ以テシタルヘキニ因リ素リ彼
ヲ深ク咎ムヘキニ非ス然リト雖モ彼カ施シタル所ノ者ヲ見ル
ニ當時事ヲ処スルニモ止ムヲ得サルニ出タリト認ムヘキモ

ノアラサルナリ
北京ノ日本代理公使モ亦敢テ彼ト伍ヲ異ニセス而メ談公使ハ
仮令モ當時何等ノ憤發心ヲ有シ何等ノ智謀ヲ有シタルハモ
高明白ニ詳説スルニ於テハ却テ其成跡ハ彼ノ使者ヨリモ甚々
劣ル所アリ今夫レ此ノ如キ下拙ノ政略ヲ施シタルカ為ニ琉人
中ニ非常ノ不平心ヲ生シ(當時殆ト暴發セントスルノ勢ニ迫レ
リ)タルノミナラス外支那ト容易ナラサル罅隙ヲ啓キ内靜寧無
事ヲ覺ムルノ言絶ヘサルニ忽チ外釁ノ事起リ更ニ人心胸々ノ
基ヲ致セリ
今將ニ支那ト開カントスルノ談判ニ付テハ豫メ想像スル所ノ
モノヨリ尚長ク日子ヲ費スルハク實ニ遺憾ニ堪ヘサル事トモナ
リ然リ而メ支那悖然トメ激怒スルハ其第一ノ執政家ナル李鴻
章憤懣シテ止マズ其然ル所ノモノハ蓋シ暖ク故シキニ非ルナ

リ然レトモ支那カ憤激シタルノ事由ナリト世上云フ所ノモ
ソハ信ノ事由ニ非ス這般ノ事件ニ於テ此ノ如ク特ニ支那ヲ激
發シタルモノハ夫ノ日本政府カ琉人ニ向テ暴行ヲ縱ニシタル
カ為ニ非ス又支那ハ兵力ニ頼ラサレハ琉球三十五島ヲ回復ス
ル能ハスト自ラ信認シタルニ非ルハ明瞭ナリ蓋シ此ノ三十
五島タル支那ノ大國ニ取リテハ僅ニ三粒ノ砂子タルニ過キス
而メ支那ノ慣習トシテ己レノ所屬ノモノニ非サレハ決テ之ヲ
敬愛セス其所屬ノ外ニ在ルモノハ悉ク之ヲ輕侮シ之ヲ野蠻視
スルカ故ニ其琉球ヲ視ル猶自餘ノ各國ニ於ケルニ異ナラス加
フルニ海軍兵器上ノ地位ニ就テ論センニ琉球ハ其四面ノ海濱
ニ珊瑚ノ岩礁屹立シ夫ノ蒸氣及電信ノ發明以來一曾テソ
日ニ占有シタルノ利益ヲ失ヒタリ此ノ如キカ故ニ支那其全島
ヲ得ルモ其價格ハ以テ之ヲ保護スルノ煩ヲ償フニ足ラサルナ

理學及道德的
學問トシテ蓋シ夫
ノ道ヲナラ

リ是ヲ以支那カ近隣兩國ノ爭論ニ干渉スル真正ノ旨意ハ乃チ
日本政府カ琉球人ニ施シタルノ所為ニ付其名義トスル所乃チ
之ヲ詳説スレハソノ自ラ進シテ方今文明開化ノ流潮ニ投ヒン
カ為メニ往古ヨリ數百年間支那ト共ニ遵奉シタル夫ノ理學及
ヒ道德的ノ傳説ノ如キハ既ニ之ヲ棄棄セル旨ヲ日本ノ斷言シ
タル事ニ在リ
然リ而メ支那ニ於テハ一二ノ要點ニ關シテ泰西各國ヨリ條約
ヲ更訂センコトヲ強請セラル、時機當ニテ殊更ニ日本政府カ右
ノ如キノ斷言ヲ為シタル一途ハ支那ニ對シテ其政米各國ト通
交ヲ始メシ以來ノ最モ甚シキ辯難攻撃ナリト謂フヘシ若シ爰
ニ學生アリ受業中其師ノ譴責ヲ受クルニ及シテ之ヲ忍フヘカ
ラストセハ其同列ニシテ前日過失アリ次日復タ一層嚴酷ノ譴
責ヲ師ニ免カレサルノ徒漫リニ鷹揚雷同シテ共ニ彼ノ學生

ヲ叱咤スルニ及シテヤ其情ニ於テ忍フヘカラサ、更ニ前ヨリ
甚シキモノアルヘシ日本ノ支那ニ於ケル殆ント之ニ彷彿スル
ノ情狀アリ
今ヨリシテ日本ハ支那ノ深ク凌辱侮慢ヲ受ケタルヲ憤リ向來
ニ日本ヲ敵視スヘキヲ知りテ自ラ欺クコトヲ得カルヘシ但シ曩
ニ日本非常ノ英斷ヲ舉行シタルカ為ニ其ノ新交ノ友邦ニ無上
ノ賞揚ヲ受ケタルモ猶退テ其一方ヲ顧レハ人當カニ之ニ向フ
ヘシ曰ク炳魚其体面ヲ一新シタルカ為ニ彼ノ友邦ニ得タルノ
賞譽ハ果ノ具一新ヲ為スニ付テ自ラ致セシ所ノ不利ト困難ト
ヲ相償フニ足ルヤト
此ノ失計ニ因リ日本ノ自ラ招キタル困難ノ地位ヲ救済スルノ
良計ヲ説示スルハ素リ易々ノ業ニ非ス但シ現今ノ情形ニ於テ
和戰ノ論題ニ関スル諸事ニ付テハ支那若シ日本ト鬪、啓テ兵

ヲ交ユレハ則チ其ノ結末如何ハ之ヲ今日ニ預言スルニ尚スト
至レ偶々以テ日本ヲ利スルニ足り而テ毫モ支那ヲ利スルト
キハ支那ノ能ク熟知スル所ナルヘシ況ヤ支那ノ遠謀アルトハ
各国之ヲ以テ諺トスルニ於テチヤ
余輩之ヲ思フニ支那必ス此等ノ事ヲ知ラン人アリ若シ支那ヲ
シテ之ヲ知ラレメント欲セバ支那ニ於テ最モ頭明ナルレ工
シヤン(不幸ニシテ今既ニ墓ニ皈ス)ノ五年前曾テ日本ノ外交家
ニ語リタル一場ノ戯話ヲ此ニ贅スルニ若クハナレ此ノ使臣
ハ年壯ニ氣猛リ當時兩國ノ間ニ成立スル論点ヲ討論スルニ方
ワテ話吹稍々現当ノ外ニ踰越シ紛雜ヲ極メリ予時此ノ有才ナ
ル宰臣乃チ之ニ語テ曰ク
昔シ鳥アリ往テ蛭ノ居地ニ棲止ス蛭初メ之ヲ見テ以テ敢テ
意トナサズ於是乎鳥漸ク暴慢悍カル所ナレ蛭之ニ報ヒ

ント欲スルモ鳥翼健ク飛フ捷シ彼レ其ノ長技ヲ恃ミ愈々
蛭ヲ輕ンズ而テ彼レ自ラ以テ為ラク我能ク飛テ空ニ翔ル
ノ小蛭行テ僅ニ尺寸ニ過ズ固ヨリ慮カルニ足ラサルナリト
然レ氏蛭日々之ヲ伺テ俟マズ一日鳥下テ食ヲ求ムル所ノ小
蟹ヲ啄ム蛭乃チコトヲ聞テ其ノ足ヲ銜ニ固持シテ釈サズ于時
猶漁夫アリ之ヲ覩テ甚ク喜ブ遂ニ両ナガラ捕テ去ルト
此ノ一話ハ余輩既ニ千八百七十四年ノ事ヲ論述セシニ當テ其
意義明瞭ナルヲ以テ更ニ之カ解釈ヲ為スヲ要セガルベシ
今日ノ舞臺ニ於テハ俳優ハ同ク前日ノ人ナリト虫氏其役割ハ
復々前日ト同カラス乃チ心神激發シテ我ヲ嚇々スルモノハ支
那ナリ蝶上ニ黙卧シテ時変ヲ俟ツモノハ日本ナリ然リト虫氏
突然未來ニ非常ノ変態ヲ現出スヘキ此ノ類ノ戲場ニ於テハ帳
裏ニ政事上ノ演戲ヲ指揮スルモノアリテ時々鉄線ヲ振盪シ場

中ノ風趣ヲ致スニ巧ナルモ此ノ指揮者ハ現ニ演スル所ノ戲事
調和セス中途ニシテ忽チ瓦解スルニ及ンテ更ニ自ラ痛痒セカ
ルモノナリ幸ニ兩國此等ノ事アルヲ忘ル、勿レ

